

**平成23年度  
褐毛和種生産費調査  
報告書**

**【要約版】**

平成24年2月

**alic** 独立行政法人農畜産業振興機構

## 1. 調査の概要

本調査では、褐毛和種生産農家 50 戸（繁殖経営 25 戸、肥育経営 25 戸）を対象として、それぞれの経営概況と繁殖経営にあつては出荷・保留子牛 1 頭当たり生産費、肥育経営にあつては肥育牛・正常出荷 1 頭当たり生産費を調査した。

調査結果の取りまとめに当たり、それぞれの経営について、地域区分（全国、北海道、県）別集計と、地域区分別の経営規模別集計を行ったが、調査戸数が少ないこともあり必ずしも適切ではないが、参考までに行った。

## 2. 調査結果

### <繁殖経営の結果>

#### (1) 繁殖農家の経営概況

本調査の対象となった繁殖農家の経営概要は、全国平均では、繁殖雌牛飼養頭数 18.4 頭、子牛正常出荷頭数 12.3 頭、自家保留頭数 1.5 頭であった。

これを地域別にみると、総じて北海道の経営が県の経営に比べて大きく、繁殖雌牛飼養頭数では 24%、子牛正常出荷頭数では 7%、自家保留頭数では 118%高くなっている。畜産経営の規模にそれほど大きな差はみられない。

しかしながら、農業収入の側面をみると、北海道は 29,969 千円に対して県では 5,964 千円と北海道の規模は県のほぼ 5 倍であった。また、農業収入に占める肉用牛の収入は北海道 20%、県では 67%と県は肉用牛への依存が高いという特徴がある。

図 概要 1-1 調査褐毛和種の繁殖経営の概況

(単位：頭)

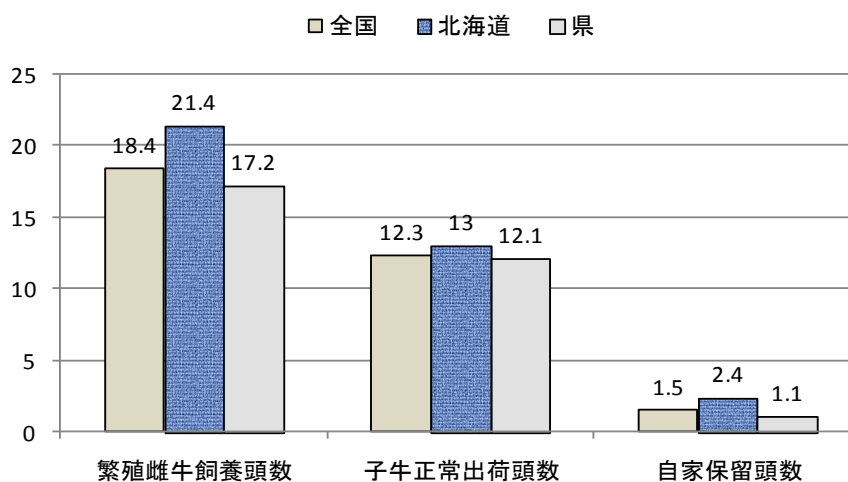


表 概要 1-1 調査農家の農業収入

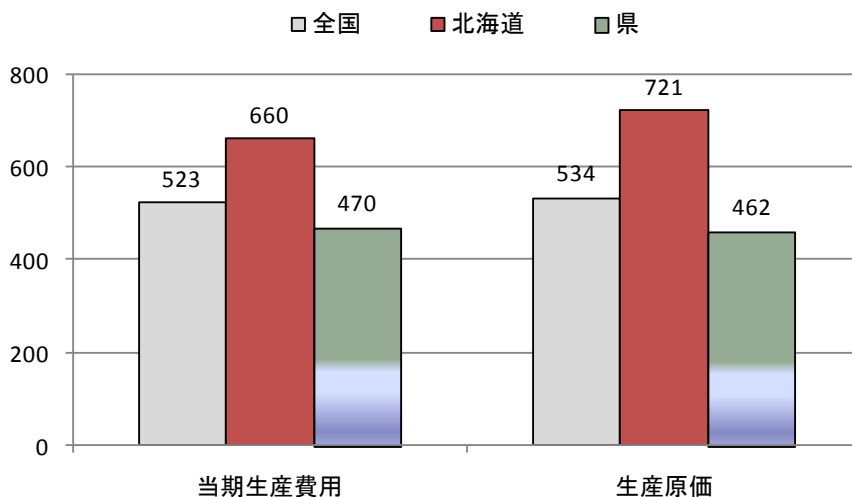
	農業収入 (千円)	うち肉用牛 収入 (千円)	農業収入に占める肉用牛収入の 比率 (%)
全国	12,686	4,532	35.7
北海道	29,969	5,857	19.5
県	5,964	4,017	67.4

## (2) 生産費用（褐毛和種子牛出荷・保留1頭当たり）

直接的な生産費用である当期生産費用は北海道が660千円で県が470千円と北海道が県よりも40%高かった。また、評価額の増減に利子、地代を加えた生産原価では北海道が県よりも5割以上高かった。

なお、生産原価について飼養頭数規模別にみると、経営規模が大きいほど低い傾向が表れている（別表1-5）。

図 概要1-2 出荷・保留1頭当たり生産費用の比較（単位：千円）



## <肥育経営の結果>

### (1) 肥育農家の経営概況

本調査の対象となった肥育農家の経営概要は、全国平均では、飼養頭数80頭、このうち褐毛和種は72頭であった。

これを地域別にみると、肥育牛飼養頭数では北海道の57頭に対して、県では95頭と県の規模の方が大きかった。

また、農業収入は、北海道の40,215千円に対して県は46,817千円と県の方が16%高かった。さらに農業収入に占める畜産収入の比率をみると、北海道は85%、県は97%と繁殖経営と比べて畜産依存が強い結果となった。

図 概要2-1 褐毛和種肥育経営の肉牛飼養頭数（単位：頭）

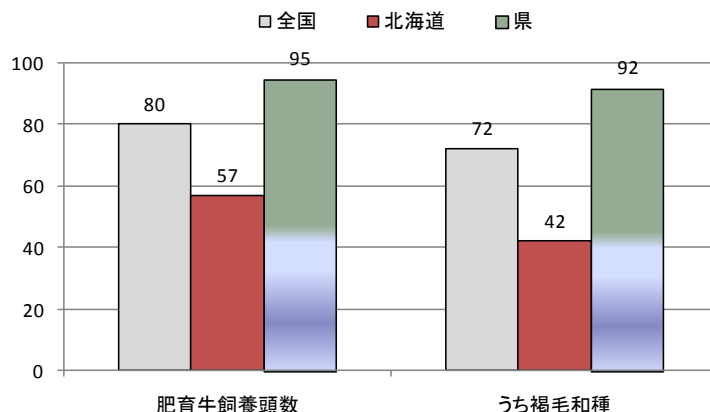


表 概要 2 - 1 褐毛和種肥育経営の農業収入と畜産部門収入

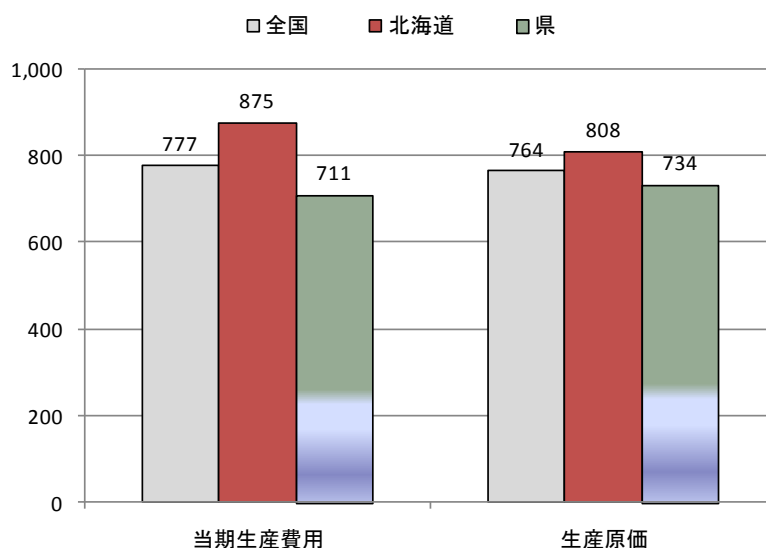
	農業収入 (千円)	うち畜産収 入 (千円)	畜産収入比率 (%)
全国	44,176	40,826	92.4
北海道	40,215	34,127	84.9
県	46,817	45,404	97.0

(2) 生産費用出荷 (1 頭当たり)

褐毛和種肥育牛 (出荷 1 頭当たり) の生産費は、当期生産費用では北海道の 875 千円に  
対して、県では 711 千円と 23%、生産原価では 10%といずれも北海道が高かった。

図 概要 2 - 2 肥育牛 1 頭当たりの生産費

(単位: 円)



当期費用の費目構成は、繁殖経営の場合は労働費と飼料費でほぼ半分以上を占めるが、  
肥育経営ではもと畜費が大きな割合を占めることとなる。全国の 32%に対して、北海道  
23%、県 40%とその構成比に差が表れている。

なお、肥育牛飼養頭数規模別に生産原価をみると、49 頭以下で最も高く、100~149  
頭で最も低くなっている (別表 2 - 5)。